

# Mランドニュース Vol. 50

## 丹波ささ山校 平成23年5月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県篠山市池上569  
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 豊田 文雄  
<http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

### 《今月の言葉》

「ものごとは努力によって解決しない」 努力が報われないからと嘆き苦しむことはない。私には努力ぐらいしかすることがないので、せいぜいやらせて頂いている。  
河合隼雄先生(こころの処方箋より)

### 入社式・新入社員研修

平成二十三年度コガワグループ入社式と新入社員研修が四月十二日(木)十四日(土)Mランド益田校(島根県)で行なわれました。丹波ささ山校からは太田秀矢・INSが出席参加し、気持ちも新たにグループの一員としてスタートを切りました。



研修参加者とお世話いただきましたスタッフ

新入社員研修同行レポート

中野 聡

まずはじめに、人が成長していく過程を目の当たりにし、また自分自身をも客観的に見つめることができた今回の研修への参加は、とても貴重な体験となりました。心より感謝します。

研修初日は、明治維新の胎動の地山口県萩市の松陰神社を見学の後、「近代文明夜明けの道を行く」Mランド益田校までの四十二kmのウォーキングから始まりました。出会ってまだ数時間しか経っていないのに研修生同士が苦しい環境の中で共に励まし合い、助け合ううちにみるみる良い顔に変わっていきのくに驚かされました。



42kmを仲間と共に歩く太田 INS(右)

二日目朝、Mランド「三種の神器」の一つであるトイレ掃除に学ぶ会を終えてみると、メモをとる、人の話に頷く、コミュニケーションを図ろうとする気持ち伝わってきて、素直な笑顔、イキイキした目が印象的でした。

入社式での小河会長の講話に「せっかくこの世に命を授けていただき、万物が宇宙に生かされているのだから、ただの自分が自己を大切に生

きているのだろうか。成長するために生まれてきたのですから止まることは宇宙からの期待に背くことになりません」とあり、社会の役に立ちたい、人のためにというMランド人の原点を再確認するとともに、自分の覚悟の甘さを恥ずかしく思いました。

以後「礼儀礼節」「報告書作成」「お茶席研修」「理念習字」などと研修は進んでい

きました。いろいろな場面において、ここまでやるかというくらいの準備と細部にまで行き届いた心遣いは、本気で知恵を出し合い考えられたものでした。どのような場面においても相手がいる限り、常に相手の立場になり考えることが大切であり、これこそがMランド益田校が日本ハイスピード三〇〇選に選ばれたわけであることを感じずにはいられません。



目一杯の大声で精読する太田 INS

### オレンジ講習

高校卒業の若い人たちの免許取得がひと段落したこの時期、今度はベテランドライバーの免許更新時講習が続きます。

受講される方々に送る応援メッセージです。

Mランド丹波ささ山のオレンジ講習(高齢者講習)

人類のつくった最高傑作、自動車を使って死ぬまで人生を楽しむための一助になればと思っています。人生を楽しむために先ず楽しい運転が必要と考えています。

楽しい運転には

①自分の技量を正しく知る  
②人に迷惑をかけない運転

たったこの二つのことです。

運転を続けることによって、人生は楽しく老化を確実に防ぎます。また、楽しい運転は長寿を倍加します。今日一日を思い切り若返って、同僚と共にMランドを楽しみましょう。

あなたの更なる挑戦を祈ります。

自分の技量を正しく知るという中には心身の素質を知るといふこともあります。とりわけ、目については認知が一番大事とされる自動車の運転です。いろいろな装置を使って自らを知っていただきます。



反応時間を測定します



視力・動体視力を測定します



視野を測定します



## お便りコーナー thank you letter

本当にお世話になりました。

Mランドの玄関扉が開いたときの皆様の挨拶が大好きでした。運転はまだまだ上達できてませんが、安全運転を心がけいいドライバーになります。ありがとうございました。

曾我香織 様

毎日、朝の早い時間から夜の遅い時間まで送迎していただき、ありがとうございました。

私たちがバスを降りるときには、必ず声をかけてもらい、毎日頑張ることができました。

降篠琴音 様・東郷千尋 様

お世話になり、本当にありがとうございました。

卒業後、試験場へ行き、無事に免許を取得することができました。自分の名前や顔写真の入った免許証を手にするのができて嬉しく感じると共に、とても身の引き締まる思いです。

思えばMランドでの合宿生活は気がつけばあっという間でした。「本当に運転することができるのだろうか…」という入所前の不安はどこへやら、毎日個性豊かなインストラクターさん、スタッフさん、同時期に入所したたくさんの友達に囲まれて一日一日が充実し、楽しくて楽しくて仕方がなかったです。技能や学科一つひとつがステキな思い出で帰ってからも、母に「Mランド病なんじゃない？！（笑）」と言われるくらい、Mランドのことばかり話題にしています。日に日にMランド篠山シックが半端ないです！（笑）。本当に、本当にありがとうございました。Mランド丹波ささ山で学んだ譲り合いの心と安全運転を忘れず、ステキなドライバーになれるよう日々努力していきたいと思います。また遊びに行かせてくださいね。

田村依子 様

## 勇気の物語 Brave Story (1)

鉄人レースといわれる過酷な競技のアスリートとして、また若者を指導するリーダーとして活躍されている八尾彰一氏とご縁をいただき、今回よりシリーズでコラムをお願いしました。



や お しょういち  
八尾 彰一

昭和三十七年（一九六二）生まれ 兵庫県篠山市出身。プロトライアスロンチーム「チームプレイブ」監督。シドニー・アテネなどオリンピック男子コーチを歴任し、日本のトライアスロン界をリードする。

はじめまして。トライアスロンコーチの八尾彰一と申します。篠山市河原町に実家があり、縁あってMランドには毎月二回、トイレ掃除に参加させていただいております。

始めましたので二十六年間になりますか、よくここまで続いていると思うこともあります。

最近、いろんな人から同じ質問をされます。「トライアスロンはしんどくないですか？」「なぜトライアスロンをしているのですか？」と。「楽しいからしんどくないです。楽しいからやっているんです！」と返答するので質問された方は困られます。しんどかったら多分やめていたと思いますし、楽しいから二十六年間続いているのです。なにが楽しいのかといいますとできそうもないことへチャレンジしている自分が楽しいのです。

大学時代（体育大学出身）の体操の授業は元オリンピック金メダリストの方が指導してくださったんです。その先生は、「十回やってできなかつたら百回やってみる。百回やってできなかつたら千回やってみる。数回のチャレンジでできないからといってあきらめるのはもったいない。千回もやれば大体のことはできるようになる」とおっしゃいました。上手い下手、速い遅いではなく、どこまでチ



チームメンバー（藤木さん：左）とお子さんとトイレ掃除に参加して

ヤレンジを続けるかが凄いとなんだということなんです。それならできると思い込んで、自分の目指すべき道は、できないことへのチャレンジとスリッチが入ったのです。泳げなかった私は、トライアスロンに参加することを目標に大学生活を過ごすことになったのです。

レースや練習でバテて動けなくなることも、記録の低迷などはしょうちゅうです。お陰様でこれがつらいことと思っただけは一度もありません。自分の好きなチャレンジをやっていますので、速い、遅いのプレッシャーがありません。毎日が自己挑戦ですからね。この年になっても全力でレースに出ているのは、全力で毎日過ごすためなんだと最近になって気づきました。

次回は、トライアスロンのエピソードをお伝えします。

## 編集後記

平成十八年の第一号発行から今回、第五十号になりました。紆余曲折を繰り返して、号を重ねてまいりましたが、つぎのことを念頭に編集してまいりました。

- 一、Mランドのことを伝えるための広報紙であること
  - 二、私たち社員自身が理念や目的に合致した行動をしているかを確認できる点検票であること
  - 三、読む人が勇気と希望を持って進むことができる応援歌であること
- 今後とも一層充実した紙面にできるよう勉強してまいりますので、皆様方のご意見ご感想等お聞かせいただければ幸いです。
- なお、毎号にわたり添削ご指導いただいております相談役で（株）タニサケの松岡会長には心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

（豊田文雄）



昨年植えた記念樹のハナミズキが咲きました